授業科目　相談援助実習 II

【担当教員名】	対象学年	2	対象学科	社会
圓山　里子	開講時期	前期	必修選択	選択
	単位数	2	時間数	90（学内指導 30・現場実習 60）

【ディプロマポリシーとの関連性】

知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現
◎	◎	◎	◎	◎

【概要・一般目標：GIO】

1．社会福祉専門職の前提となる一社会人として、対人援助に必要とされる基本的な姿勢を学ぶ。
2．社会福祉施設等での現場実践を体験し、現場における相談援助等の実際、職員の業務、利用者の状況について基礎的な理解を図る。
3．次年度の相談援助実習 III に向けた自己の達成課題を明確にする。

【学習目標・行動目標：SBO】

1．福祉現場等における基本動作を身につける。
2．社会福祉施設等での業務の実際を理解する。
3．社会福祉施設における職員の業務を理解する。
4．社会福祉施設における利用者の状況を理解する。
5．社会福祉士として求められる資質、倫理、技能について現場実践から理解する。
6．5 と照らして自己の習得状況を理解し、相談援助実習 III に向けた達成課題を明確にする。

回数	授業計画・学習の主題	SBO 番号	学習方法・学習課題 備考・担当教員
1	オリエンテーション（1）「体験実習」の位置づけ		講義・グループ指導
2	オリエンテーション（2）「体験実習」の学習目標について		講義
3	実習現場からの助言		講義
4	事前学習の進め方について等		講義
5	実習グループの形成、実習施設の理解		グループ指導
6	実習目標の明確化（1）		グループ指導
7	実習目標の明確化（2）		グループ指導
8	実習記録について		グループ指導
9	個人票の完成		グループ指導
10	相談援助実習における接遇マナーの基本		講義
11	（1）事前学習のまとめ、（2）実習中・終了後にやるべきこと		グループ指導
12	実習前の最終確認		講義、グループ指導
13	【後期】実習後のまとめについて		講義、グループ指導
14	【後期】実習のふりかえり（1）		グループ指導、個別指導
15	【後期】実習のふりかえり（2）		グループ指導、個別指導
	（上記の日程は講師の都合等により変更することがある）		
	8 月～ 10 月　各配属先で「相談援助実習 II」を実施		各施設で実習
	シラバス上、開講は前期科目であるが、実習は前期授業終了後、実習後のまとめとふりかえり（第 13 ～ 15 回）は後期に実施する。掲示等に、十分、注意すること。		

【使用図書】	＜書名＞	＜著者名＞	＜発行所＞	＜発行年・価格 他＞
教科書 （必ず購入する書籍）				
参考書	社会福祉実習サブノート　～初めて実習生となるあなたへ～	社会福祉実習教育研究会編集	中央法規	2000・2,000 円
その他の資料	「現場実習の手引き」ほか、適宜プリントを配布			

【評価方法】

授業（学内での事前学習）への出席状況、提出物の提出状況、実習実施状況、『実習ノート』の記載状況、実習レポートの内容から総合的に評価する。

【履修上の留意点】

・事前学習（全体・グループ）は実習に向けての重要な説明が含まれているため、必ず出席すること。
・各種提出物や報告は期限を守り、確実に行うこと。
・実習は施設職員と利用者の方々の理解と協力によって行われるものであることに十分留意し、誠実な態度で臨むこと。場合によっては、実習中止ということもありうる。